



🔔 NPO 法人かわさき市民アカデミー「総会」開催！

2018年度認定 NPO 法人かわさき市民アカデミーの総会が5月25日(金)、プラザで開催されました。出席・書面・委任状を含め146名の出席があり、総会定足数を満たし成立。



藤嶋昭理事長のご挨拶

はじめに藤嶋昭理事長から、「今年は開学25周年で記念すべき年です。アカデミーは授業内容の良さで誇れるものがあります。川崎市教育委員会ははじめ様々な方々からご支援をいただいております」とのお話がありました。太田猛彦学長からは、「アカデミーが先生方に知られるようになり、出講を快く引き受けていただけようになった。ありがたいことです」とお話がありました。公財)川崎生涯学習財団山田雅太理事長から、太田学長のインタビュー記事が載った広報誌を手に、「アカデミーについて、開学からの“変わらないもの”がある。それは、①自立した市民、②学んだことの社会への還元、③自己啓発というアカデミーの3つの目標です」とのお話をいただきました。

その後、議長に稲田理事を選出。報告及び議案が提出され、議事に入りました。

1. 報告事項について

はじめに吉松副理事長から、総括として2017年度活動報告と2018年度の活動方針について示され、総務、事業推進、広報、地域連携各部会長から活動と方針が報告されました。

2. 2018年度の活動方針—重点施策の抜粋(後述の第3次中期経営計画の初年度となります)

① 講座に関して

- ・申込者の多い講座の増設及び抽選を減らす工夫をします。
- ・受講生の少ない川崎市南部地区での講座開設をします。
- ・子育て世代など従来受講生の少ない層のための講座開設を行います。

② 学習成果を活かした地域還元活動について

- ・受講者グループが新たに社会還元活動に取り組む際の支援をします。

③ 運営上の見直し

- ・募集活動に伴う広報活動の重点地域を見直します。
- ・新規受講生確保のため、抽選制度、会員制度等の見直しを検討します。
- ・運営世話人確保のための施策を検討します。

3. 議案の審議について

審議と質疑応答では、アカデミーの運営について建設的なご意見をいただいたのち、6つの議案について何れも賛成多数で可決されました。



2018年度通常総会

第3次中期経営計画(2018年度~2021年度)の概要

2018年度から第3次中期経営計画がスタートします。

レベルの高いカリキュラムの提供を堅持し、今後厳しい経済動向を想定し、市民の多様なニーズに沿った講座の運営や会場の確保、幅広い年齢層へのアプローチ等の施策を展開します。

重点施策

- ① 人気講座の増設―抽選講座の減少を目的に、学習プラザ教室の効率的な活用、近隣の大型教室の確保等講座の増設を図る。
- ② 受講生の少ない川崎区での講座を開設。
- ③ 教職員等受講の少ない層への受講機会の提供。
- ④ 30歳代~50歳代の若い世代を対象とした支援講座を開設。
- ⑤ 地域にある企業や大学及び行政の施設(博物館、図書館、市民館)との連携講座を検討。

🔔 2018年度 後期受講生募集 開始!!

◆募集期間 7月6日(金)~8月17日(金)

◆新聞折り込みチラシ 7月8日(日)

■お知り合いの方をご紹介ください

ここ数年、ご紹介による受講が増えています。様々な情報が飛び交う中、一番確かな情報源は、信頼のおける友だちからの情報だといわれています。皆さま、お友だちをご紹介ください。

■説明会開催のご案内

受講を希望される皆さまに当アカデミーの沿革、講座の内容等ご理解いただくため、受講説明会を下記のように開催いたします。お知り合いの方に説明会のご案内をお願いいたします。

■会場のご案内

| 場所 | 学習プラザ | 宮前市民館 | ミュージア | 高津市民館 | 麻生市民館 | 中原市民館 |
|----|-------------|---------|---------|---------|--------|--------|
| 日付 | 7/23(月) | 7/25(水) | 7/26(木) | 7/31(火) | 8/2(木) | 8/3(金) |
| 会場 | 301会議室 | 第4会議室 | 研修室2・3 | 第6会議室 | 第1会議室 | 第2会議室 |
| 時間 | 10:00~12:00 | | | | | |

■「講座のご案内」パンフレット設置場所(アカデミー専用ラック)のご案内

区役所、市民館等公共施設のご協力を得て“受講生募集”のご案内を置かせていただき広報活動を行っています。

- ・川崎区 川崎図書館 教育文化会館 ・幸 区 幸文化センター
- ・中原区 中原市民館 中原図書館 国際交流センター
- ・高津区 高津市民館 ・宮前区 宮前市民館
- ・多摩区 多摩市民館 多摩図書館 ・麻生区 麻生市民館 麻生図書館 アートセンター

※上記以外の区役所・図書館、新百合21ビルでもパンフレットは入手できます。

📍 代表世話人のご紹介

講座24 世界史 「代表世話人になって思うこと」

代表世話人 伊東 嘉一

2012年にアカデミーを受講して今年で6年目になります。受講の動機は、退職後体調を崩し社会復帰のウォーミングアップとして始めたことで、世界史は2016年から受講しています。

世界史講座は2008年に始まり平均130名が学んでいます。

時間的にも地域的にも学習対象は広く内容は多岐に亘りますが、基本は過去の事象から現在と未来を考える力を学ぶことだと思っています。

世話人になって良かった事は多くの人と知り合え、テーマ設計に参画できたことです。テーマは受講生の要望が反映できるように世話人も参画して、東京大学名誉教授の馬場康雄先生のご指導のもと決めていきます。現在、2019年度のテーマ設計を開始したところです。世話人に興味ある方のご連絡をお待ちしております。



講座の司会をしています

📍 受講生の声

—今更ながら、勉強が好きです—

経済WS&国際関係WS 受講生 中村 治樹

自分は何にも知らないなあ、勉強してこなかったなあと今更ながら反省しきり。死ぬまで少しでも疑問を解消したいとアカデミーに通っています。



上高地にて(5月)

経済WSと国際関係WSに所属し、今期は「AI(人工知能)」と「中国」について学んでいます。自分の担当箇所を掘り下げて発表しなければならないので、結構たくさんの本や資料を読みます。また、他メンバーの発表時には、遠慮しいしいですが、自分なりの意見を述べています。

WS終了後はファミレスで飲みながら授業の続き、「シンギュラリティが・・・」とか、「一帯一路が・・・」などと議論している爺さんを、周囲の若者は奇異の目で見ていることでしょうか。

当たり前のことですが、アカデミーには色んな考えの人がいます。自分自分の考えにある程度自信を持っていますが、違う見方を知ること大事とぐっと我慢。これがまた刺激となって、毎週、楽しいアカデミーです。

📍 講師のご紹介

「美術は人生の栄養」

美術 コーディネーター 諸川 春樹

「美術は人生の栄養」をモットーに30年近く、多摩美術大学の学生諸君を教えてきました。しかし人生の栄養と言っておきながら、「美術では食えない状況」を変えることはできず、内心忸怩たる思いがあります。「美術なんて何の役に立つの?」と言われてしまえば、それでおしまいです。そこで美術にもっと関心が集まれば社会はもっと元気になるだろう、という一途な気持ちから生涯学習にも力を入れるようになりました。

カリキュラム編成にかかわってから早4年、美術I・IIではまったくの素人だという方でも入り込める内容を中心に、またWSでは美術の達人養成を念頭に置いて講座を組んでいます。美しいものを見て感動する、ただそれだけでも人生は楽しくなるもの。多くの皆さんの受講を歓迎いたします。



諸川先生

📌 かわさき市民アカデミーの変遷—シリーズその6— ＜ まとめとして…アカデミーのこれまでとこれからを語る ＞

アカデミー沿革史（抜粋）

- 2011. :アカデミー事業、NPO へ
04 移行完了。副学長5人制、
企画運営委員会発足
- 2012. :延べ受講生数 6,329 名
10 になる
- 2012. :和田学長、川崎市文化賞
11 受賞
- 2013. :開学 20 周年記念式典を
12 開催
- 2014. :アカデミー、川崎市制 90
07 周年記念功労賞受賞
- 2015. :アカデミー、認定 NPO 法
12 人として認可
- 2017. :延べ受講生数 7,000 名を
10 超える

連載を終えるにあたって、アカデミーに関係の深い3人の方にお話を伺いました。

2000年から現在まで、受講生・NPO役員としてアカデミーの移り変わりをつぶさに見てこられた千田智子さんは、「18年間で一番印象に残っているのは、アカデミーが廃止になるという話を聞いた時で、懇親会の集まりが急遽対策会議の場になりました。そこから存続を目指し、力を合わせて活動をはじめました」と、アカデミーが危機を迎えた当時の衝撃の大きさを話して下さいました。

アカデミー改革協議会事務局長として市民による自主運営のための組織づくりを推進し、現在はNPO役員を務める関智義さんは、「受講生・市民・有識者・行政等の委員で構成された改革協議会は、何をどう改革したら市の方針に沿ったものになるかという視点で、『川崎市行財政改革プラン』などの文書を読み解き、それまでのアカデミー事業を総点検して改革の方策を考え、報告書にまとめました。私は表記する文言を巡って意見が分かれる度に、

土日を使って各委員と個別に話し合い、意見調整に努めました。また、『講座会場と広報については引き続き市が支援する』ことが、アカデミー存続には絶対必要だったので、市と話し合いを重ね、『市民の自主運営で自立できるまで』という条件で、今まで通りの支援が受けられることを確認しました」と、アカデミーが存続の危機を乗り越えた時の努力について話して下さいました。

NPO役員を経験し現在は講座世話人を務める折居晃一さんは、「アカデミー存続発展の核はカリキュラムの内容であり、その中心は先生方であることは今後も変わりませんが、カリキュラムの内容は常に新しいものでありたいし、カリキュラムの新鮮さを保つことが今後の大きな課題です。そのために受講生の意見を先生方に伝え、それをカリキュラムに反映させること。それが世話人の仕事だと思っています。また自分の経験で言うと、これを学びたいという具体的な目標を持っていたことが、運営にも参画するきっかけになりました。今後は、受講生として運営にも参画することが必要だという思いを共有できる人を見つけ、一緒に活動することを通じて私たちが目指してきた『市民による自主運営』をしっかりと形に残していくこと。それが大事だと考えています」と、今後の課題について話して下さいました。

3人のお話から学んだことは、受講生は単に受講料を支払って、講義を受けるだけの存在ではないということ、受講生一人一人がそれぞれの立場で、積極的にアカデミーの運営に協力したり、運営に参画したりすることが必要なのだということでした。

編集後記

情報紙「かわら版」も回を重ね、今回で節目の70号の発行となりました。タイトルも「NPO通信」から公募により2014年1月から「かわら版」に改称。

これまで原稿を寄稿して下さいました受講生の皆さま、講師の先生方、紙面づくりに携わって下さった関係者の皆さまに心から感謝とお礼を申し上げます。

今後も、情報の提供と読みやすい紙面づくりに努めてまいります。これからもご支援の程、よろしく申し上げます。

かわら版編集委員会委員一同

認定 NPO 法人かわさき市民アカデミー

発行人 広報部会

編集人 かわら版編集委員会

川崎市中原区今井南町 28-41

川崎市生涯学習プラザ 3F

電話：044-733-5590

FAX：044-722-5761

問合せメールアドレス：

info@npoacademy.jp

ホームページ：

http://npoacademy.jp/